

## 毎日が“キーニイの牛飼い哲学”実践

梅原 加代子



私は京都府舞鶴市で酪農に従事する主婦です。夫が脱サラして酪農を始めて20年になり、現在、搾乳牛45頭、育成牛10頭を繋ぎ式で飼養しています。

就農当初に5人で農事組合法人「多祢寺高原牧場」を立ち上げ、法人組織ながら、経営は個人という形態をとっています。

### 「キーニイの牛飼い哲学」との出会い

牧場は標高390mという高地にあり、京都の中でも豪雪地域です。立地条件は決して良いとはいえませんが、眺望がよく、住めば都と、高原暮らしを満喫しています。

主人は大学で専門知識を修得し、人工授精師の仕事もしていましたが、酪農を始めるにあたり、私の方は全く酪農経験もなく、知識もありませんでした。飼養管理は主人まかせ、私はその他の分野を担当することにしました。縁あってわが家に生まれてきた牛たちのお母さんになろうと決心し、これまで愛情あふれる関係を築くことに専念してきました。

酪農を始めたころに「キーニイの牛飼い哲学」に出会いました。「私たちはあなたのくれる餌を食べ、寝させてくれる所で寝、良い牛になるのも、悪い牛になるのもあなたの世話次第です」。これは、かなり重い言葉です。今となっては、酪農を始めた早いうちに、この言葉に出会えたことに感謝し、私がこの牛たちを育てなければ、という牛飼いとしての心構えができたように思います。

### スキンシップで生まれる信頼関係

さて、毎日の作業ですが、私は必ず毎朝夕清掃し、「〇〇ちゃん、おはよう!!」と頭をなで、体に触れ、スキンシップに努めてきました。夕方には「今日も1日元気に過ごせて良かったね!! おやすみ」と声をかけ、牛舎を後にします。すると、人なれした良い牛に育ってくれます。やがて、分娩のときを迎え、主人か私が搾乳に携わることとなります。少しでもおとなしく搾らせてくれる牛になるようお願い、子牛の時から、コミュニケーションを図ってきました。予防注射、投薬時でも私になら、おとなしく身を任せてくれます。半数以上は預託に出しますが、その先で「おとなしい牛に育てているね」と言われると、牛たちも私の気持ちに答えてくれているように思います。敷料の交換も日々継続しなければ、すぐに牛体も汚れてしまいます。毎日毎日が「キーニイの牛飼い哲学」だと思っています。分娩を重ねた牛でも、幼児体験が抜けないのか、搾乳時、乳頭を拭く際、手を「チュウチュウ」と吸いたがるのです。連日、この繰り返しです。他の牧場でもこんなことがあるのでしょうか? そんな時は赤ちゃん言葉で相対する私があります。こっけいですね!!

わが家には犬も8頭いますが、それぞれに私の心をいやしてくれます。

### 経営の効率化へ向けて

ところで、酪農家にとって避けることが

できないことが、ふん尿処理の問題ですが、平成11年に、80m発酵槽2レーン、天日ハウス1レーン、たい肥舎7ピット1軒が完成し、既設のビニールハウスとの併用で処理しています。土地が確保できたことと、ランニングコストの低減化を図ることを重視し、この施設をうまく使い、たい肥化はほぼ可能になっています。今後の課題は販売ルートの確保です。現在、JAに春と秋の予約をお願いし、後は個人販売でめどはたっているのですが、販売を伸ばすためには品質の向上が求められます。写真は施設完成時のものです。

酪農情勢の厳しい昨今、経営面でも、しっかりと現状を把握し、ち密な管理が必要になります。青色申告を始めて15年、パソコンによる帳簿管理に移り、市販のソフトで5年ほど処理してきましたが、現在は畜産会の経営データ処理システムにデータ入力し、管理しています。牛群管理プログラムで、より早いデータとより多くの情報が得られるのですが、それを生かしきれない自分もどかしくもあります。今年はパソコンも最新機種を導入し、時代に取り残されないよう努力したいと思っています。

### 新たな発見と私の楽園づくり

一度しかない人生です。楽しみも持たなければなりません。月に1度、若い酪農家の人たちが誘ってくれて映画にも行きます。また、パッチワークも楽しみ、家や牛舎の周りを花いっぱい育て、日々の暮らしに彩りを添えています。牛、犬、花とにぎやかな大家族です。

もう1つ、私のライフワークにしているものがあります。自然の恵みを目いっぱい楽しもうをテーマに、山菜や野の花、木の実、私の周りで採れるたくさん自然をお



新築時(平成11年)のたい肥舎

菓子、果実酒、保存食に加工し、一年中楽しみ、遠路来場して下さる方々に、わが家流のおもてなしをと、お出しして喜んでいただいています。

年々、新しい発見があり、独自の世界を極めたいと日々挑戦し続けています。今年はその趣味が高じ、姉とともに、小さな庵茶屋を出したいと思い、準備中です。田舎のたたずまいの中で、おふくろの味を求めるように、素朴で優しいやしの庵となるようにとの祈りを込めて「山里」と名付けました。心静かなひとときを心を込めて作った山菜料理などを味わっていただき、自然を満喫してほしいと願っています。この本が皆様のお手元に届くころにはオープンの運びとなっていると思います。

仕事、趣味、生活いずれにしても、多くの人たちとの触れ合い、さまざまな知恵や考え方を吸収し、養われた感性は、誰にも奪われることはないのです。今後の生き方に素晴らしい明かりを灯してくれると思います。

ある方より「縁起の理(ことわり)」なる仏教用語を教わりました。小才は縁に出合っても縁に気付かず、中才は縁に気付いて縁を生かさず、大才は袖振る縁をも生かす。境遇は自らを創り、運命は自ら招く。何事も自分次第、充実した日々を送りたいと思います。

(筆者は京都府舞鶴市・乳牛経営)

筆者の牧場のホームページも開設しています  
【海の見える丘の上の牧場】

<http://kyoto.cool.ne.jp/padi/index.html>